令和7年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【春岡小学校】

① 今年度の課題と学力向上策

	学習上・指導上の課題		学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題>算数の「図形」を苦手としている児童が多い。さいたま市学習状況調査における「数と計算」での正答率が低い。漢字が書けていない。 <指導上の課題>反復、習熟に取り組む時間を十分にとることができていない。図形の学習では具体物等で学ぶ機会の減少を感じる	⇒	算・国はほとんどの分野で知識・技能に課題があるため、日頃の授業の中で十分に反復練習の時間をとっていく。また、ICTを活用し、児童の意欲向上を図りつつ持続して取り組むことのできる教材（ドリルパーク、Kahoot!等）積極的に取り入れていく。【通年・毎日】
思考・判断・表現	<学習上の課題>国語での文章の読み取りや、算数での題意の把握に課題がみられる。複数の資料の情報を組み合わせ、総合的に判断して解答を導き出す力が弱い。 <指導上の課題>児童がじっくり考える場面が不足している。文章の構成やそれぞれの文を理解する活動が不足している。	⇒	短めの文章のまとまりの読み取りを、授業の中で確実にしていくために、教材の中で意識して繰り返し指導をしていく。主語・述語を基本とした、文法の理解を確実にする。算数の文章題に取り組む際は、題意を全体で丁寧に確認する活動により、題意を把握する力の定着を図っていく。【通年・毎日】

② 全国学力・学習状況調査結果について（分析・考察）

知識・技能	<国語>漢字の問題での誤答が多く、定着が不十分であることが分かった。その漢字の意味を考えて日常生活等で使うことができていないと考えられる。 <算数>平行四辺形の性質をもとにした作図のしかたや、台形の意味や性質について理解しているかどうかを問う問題で誤答が多く、昨年度に引き続き「図形」を苦手としている児童が多いことがわかった。数直線上に示された数を分数で書く問題も誤答が多かった。 <理科>身の回りの金属について、電気を通すか、磁石に引き付けられるかを問う問題に課題が見られた。
思考・判断・表現	<国語>目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することについて課題が見られた。また、文章と図表を結び付けるなどして必要な情報を見付け、まとめて書く問題では無解答率も高く、全体として書くことに対して苦手意識をもっている児童が多いと考えられる。 <算数>3／4+2／3について、共通する単位分数を見出し、3／4と2／3が、その単位分数のいくつ分になるかを書く問題に課題が見られた。五角形を基本図形に分割して面積を求める問題にも課題が見られた。 <理科>ある実験結果をもとに結論をを導いた理由や差異点や共通点をもとにした新たな問題点について、文章で表現することに苦手意識をもっている児童が多いことがわかった。

③ 中間期報告／中間期見直し

	評価（※）	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	授業の中でICTを積極的に活用し、問題に取り組んだり、情報を収集し、整理したり、プレゼンテーションを作成し、発表したりするなど、様々な学習活動に取り組むことはできている。反復練習の時間が不十分なときもあるため、各授業のタイムマネジメントをしっかりと行っていく。	変更なし
思考・判断・表現	C	日々の授業の中で、国語の文法を理解できるようにするための時間を確保することが難しい。算数の文章題に取り組む場合は、題意の把握に丁寧に取り組むことで、少しずつではあるが、理解を深められるようになってきている。	・校内研修を通して、毎日の学習で取り組めるような学習活動に取り組んでいく。【毎回実施】 ・毎時のねらいの明確化、意識化を図り、それに基づくふり返りを行う。【毎回実施】 ・Kahoot!やドリルパークを活用し、主語・述語をはじめとした文法の理解を深められるような活動を増やしていく。【各単元で10分実施】 ・学んだことを生かして、説明したり書いたりする表現活動を増やしていく。【各単元で実施】

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（おおむね達成）C 6割未満（あと一歩）

④ さいたま市学習状況調査結果について（分析・考察）

知識・技能	異集団経年比較では、国語において三学年で同等もしくは向上という結果が見られた。他教科においても概ね同様の傾向が見られ、知識に係る偏差値が向上していることが分かる。一方で、同一集団による経年比較では、6年生の社会や理科など、一部で上回っているものの、全体的に前年を下回る傾向にある。また、正答率を市の平均と比較すると下回る教科、学年も見られるため、基礎基本を中心に確実な学習内容の定着を図る必要がある。
思考・判断・表現	市の平均と比較すると全体的に下回ってはいるが、本校内で経年比較（異集団）をすると、半数以上の教科で向上が見られた。ただ、知識・技能同様に、同一集団で経年比較をすると、全体的に低下している。今年度、本校で取り組んできた「読解力」を身に付けるための学習活動をより一層充実させていくことが大切なのではないかと考える。

⑤ 学力向上策の実施状況

	評価（※）	
知識・技能	B	本校の経年比較から見ると、前年度を上回っている教科もある。日頃の授業の中で取り組んできた反復練習の成果が、少しずつではあるが、成果として表れているとみられる。また、3・4年生の言葉の特徴や使い方に関する領域では、市の平均正答率を上回っているものも多く見られた。低学年から積み重ねてきた基礎の定着ができていると考えられる。
思考・判断・表現	B	本校の調査結果を経年比較すると、一部では前年度を上回っている項目もあるが、依然として知識・技能の分野よりも苦手としている児童が多いことが分かる。要因の一つとして、やはり「読解力」の不足が挙げられる。これは、本校の課題であり、校内研修等を通して日々の学習活動充実を図ってきたが、その取組はまだ緒に就いたばかりであり、調査結果に直接結び付く段階にまでは及ばなかった。

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（おおむね達成）C 6割未満（あと一歩）

⑥ 次年度への課題と学力向上策

知識・技能	今年度も取り組んでいることを継続する。反復練習やICTの利活用を通して習熟を図り、低学年からのより確実な定着を目指していく。特に国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」、算数の「数と計算」「図形」「測定」は重点的に授業改善、指導を行っていく。次年度の全国、市の学習状況調査で、それぞれの効果を検証していきたい。
思考・判断・表現	今年度に引き続き、全ての教科の基盤となる「読解力」の向上は必要不可欠である。本校で、新たに取り組んだ「親子読書の日」を来年度も継続し、読書量不足の解消、進んで本に関わる児童の育成を図っていきたい。また、次年度の研修テーマである「子どものよりよく読む力の向上」を目指して、教職員同士で実践を共有しながら様々な活動に取り組んでいきたい。全国、市の学習状況調査で、今年度を上回ることを目指す。